

◆技術交流

アオリイカ漁具・漁法技術交流

與那嶺盛次

1. 目的

石川市漁協具志川支所の漁業者が、アオリイカの漁具・漁法について長崎県五島漁協の漁業者との技術交流を行い、漁業技術や知識の向上を図った。

2. 交流先

長崎県五島漁業協同組合富江支所

3. 日程

平成15年11月25日（月）～11月27日（木）

4. 交流参加者

安慶名正廣（石川市漁業協同組合具志川支所支所長）
平川 隆（石川市漁業協同組合具志川支所）
金城 健夫（石川市漁業協同組合具志川支所）
平川 善康（石川市漁業協同組合具志川支所）

5. 引率者

與那嶺盛次（沖縄県水産試験場普及センター
専門技術員）

6. 交流地の概要

五島列島は九州の西北端に位置し、長崎湾から西へ約100km、東シナ海上に南西から北東へ細長く横たわる列島で、その長さは約150kmに及ぶ。海岸線は、多くの溺れ谷のため湾入屈曲に富み、いたるところに天然の良港がみられる。また、島嶼間における大・小の瀬戸は、魚類養殖等の好適漁場を形成している。

一方、列島を取り巻く広大な海域は、黒潮奔流から分岐して北上する対馬暖流と列島付近にできる沿岸流との影響から魚群の回遊が多く、西日本有数の好漁場となっている。全漁獲量は

105,442トンで漁種別の構成比でみると、さば類42.5%、あじ類24.3%、いわし類2.9%、いか類3.9%、ぶり類2.7%となっている。五島では、長崎県全体の33.2%が水揚げされる。

7. 交流内容

平成16年11月25日、五島水産業普及指導センターの北田所長と狩野普及員の案内で、五島漁協富江支所におもむいた。田中支所長とアオリイカ漁を実施している漁業者からアオリイカしゃくり釣とアオリイカ泳がせ釣の説明を受けた。

午後5時から午後6時まで漁船2隻に分乗ししゃくり釣りの乗船実習を実施した。午後6時から午後7時までは田中支所長の漁船で泳がせ釣りの乗船実習を実施した。

しゃくり釣は、漁船を風、潮に流しながら水深10～20mの所でゆっくり前進させ、船尾部から海底近くに擬餌をおろし、釣竿を思いっ切りしゃくることによって、擬餌を上下移動させた。擬餌が海底にかからないように繰り返ししゃくりイカの当たりを待った。2尾のイカを釣ることができ、活贄に收容した。操業は日の出前に出港し地先漁場で昼間行う場合と夕方18時ごろ出漁し23時ごろ帰港する夜間行う場合がある。通常は瀬の周辺部を旋回するように操業するが、海底の荒い所では船速を調整し、釣り具を海底にかけないようにしゃくりながら釣獲する。漁期は11～3月である。

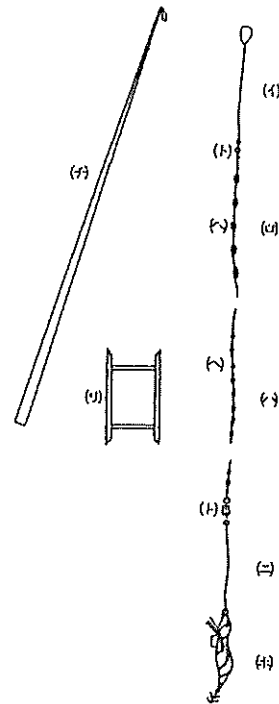


図1. アオリイカしゃくり漁具釣見取図

表1. アオリイカしゃくり漁具仕様表(12~15m用)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備 考
(イ)	道 糸 1	ナイロンテグス	20~30号 7.5m	1本	端にツボを作り, すれないようにセキマキする
(ロ)	道 糸 2	〃	12号 8.3m	〃	ビシヨマ
(ハ)	道 糸 3	〃	〃 10.5m	〃	〃
(ニ)	釣 元	〃	〃 7.5m	〃	〃
(ホ)	擬 餌 針	木又はプラスチック		〃	
(ヘ)	ビ シ	鉛	4入(9.1g) 9入(6.3g)	46個	道糸2に16個(1袋4個入り) 道糸3に30個(9個入り)
(ト)	サルカン	しんちゅう		2個	
(チ)	竿 竹	グラスファイバー	2.5m	1本	
(リ)	枠	木	30cm	1個	

漁場水深に合わせてビシの量, 糸の長さを変えた漁具を数種類作っておく必要がある。

泳がせ釣は水深約20m所に錨を打って船をとめ、集魚灯をつけた。生き餌のアジ(約10cm)は餌用の針に鼻掛けし、錘を海底までおろしてから1.5~7.5m上げた。集魚灯でアオリイカが集まってくるのが観察され、約30分すると多数のアジも集まってきた。残念ながら餌のアジはよく釣れたが、アオリイカは釣ることができなかった。通常、操業は日没から夜明けまでである。漁期は9月~翌年1月で、盛漁期は12月頃である。

富江支所のアオリイカ漁獲量は、約15,700kg(平成14年)、金額にして約1,340万円であった。アオリイカは、地元では「水イカ」と呼ばれ、一番人気がある。五島漁協では五島近海で獲れる1.0~1.5kgの大きさのアオリイカで、姿も良くアオリイカの特徴である身の厚みや旨味が増したものを扇白水(あおりひめ)と名付けてブランド化し、一匹一匹しめて出荷している。11月26日は午前7時から福江市魚市場のセリ

を視察した。アオリイカは大量に揚がっており、約800円/kgで高くても1,200円/kgとのこと

であった。定置網での漁獲も多かった。しゃくり釣具は購入し、泳がせ釣具は譲り受けた。

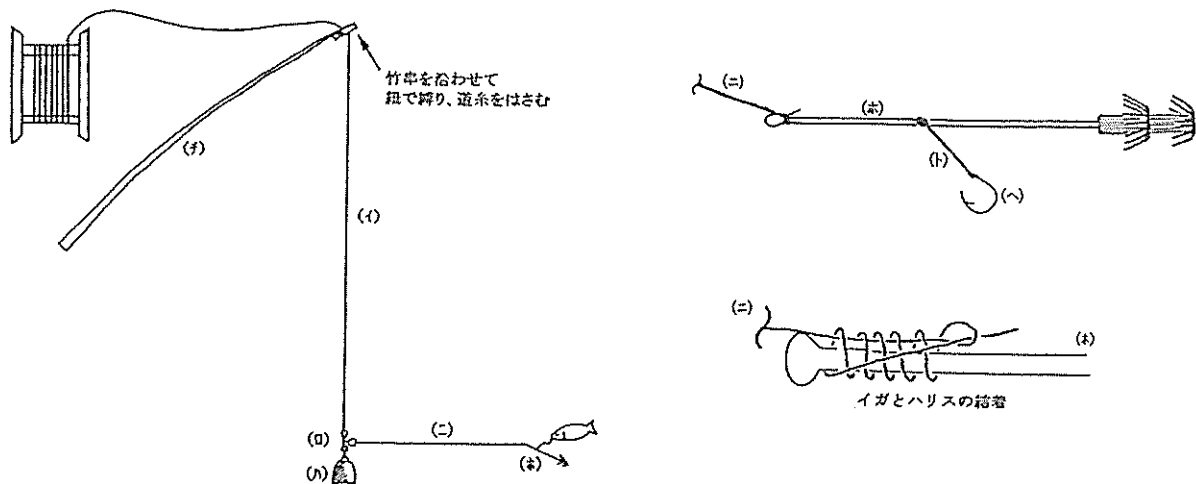


図2. アオリイカ泳がせ釣具見取り図

表2. アオリイカ泳がせ釣具仕様表(1セット分)

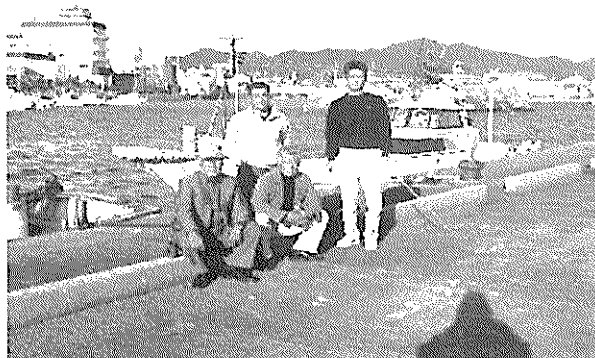
符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
(イ)	道 糸	ナイロンテグス	10~12号 水深以上	1	
(ロ)	三又サルカン			1	
(ケ)	錘	鉛	20~100号	1	
(ニ)	ハリス	ナイロンテグス	6~8号 1.5m	1	
(ホ)	イガ	ステンレス	2段イガ 軸長15cm, φ1.5mm	1	ハリスが抜けないように、軸の先をベンチなどで平らにつぶす。
(ハ)	餌針	鋼	タイ縄針 8号	1	生き餌を鼻掛けする。
(ト)	餌針糸	ナイロンテグス	6~8号 2cm	1	餌の魚の体長に合わせて、イガの軸を滑らせることができるように結ぶ。
(フ)	釣竿	プラスチック	1.0m	1	先に3cmほどの竹串を沿わせて糸で縛り、道糸を挟んで止められるようにしておく。

8. 交流所感

しゃくり釣は、本県においても実施が可能と考えられ技術交流に参加した具志川支所の漁業者も帰って試験的に実践することになった。泳がせ釣については、集魚灯を使用することや生き餌が必要なことからすぐ実践するのは難し

いようである。

最後に今回の技術交流でお世話になった五島水産普及指導センターの北田所長、狩野普及員、五島漁協富江支所の田中支所長をはじめ乗船させていただいた漁業者の方々に心より感謝申し上げます。



①技術交流に参加した漁業者の皆さん



②シャクリ釣について説明を受ける様子



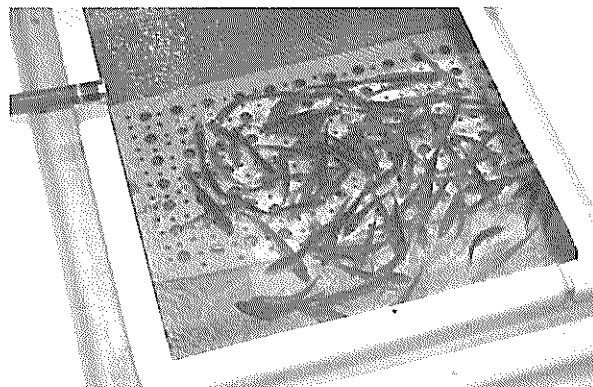
③乗船実習スタート



④シャクリ釣をする平川隆氏



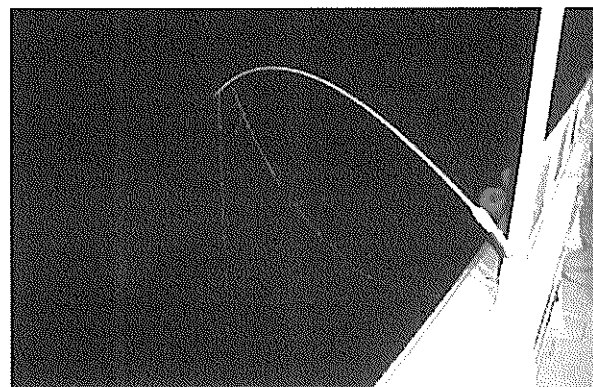
⑤泳がせ釣り乗船実習



⑥生き餌のアジ (約10cm)



⑦餌用の針にアジを鼻掛けする



⑧船べりに泳がせ釣具を5本セットした



⑨シャクリ釣で漁獲したアオリイカ



⑩セリに出されたアオリイカ